



# みどりの風

平成26年6月3日発行  
校報 第509号  
〔みどりの風 第52号〕  
練馬区立関町北小学校

## 命の根

校長 大野 泰弘

相田みつを氏の「いのちの根」という詩があります。

いのちの根
なみだをこらえて
かなしみにたえるとき
ぐちをいわずに
くるしみにたえるとき
いいわけをしなくて
だまって批判にたえるとき
いかりをおさえて
じつと屈辱にたえるとき
あなたの眼のいろが
ふかくなり
いのちの根が
ふかくなる
みつを

読書をする時間があまりとれないとき、なにげなくインターネットの記事を読むときがあります。

子どもたちが運動会の練習に汗を流し、歯を食いしばっている姿を見ているときに、この相田みつをさんの詩と共に、ある記事にあった言葉を思い出しました。

それが誰の言葉であるのかは示されていませんでしたが、その言葉の一つ一つの響きや意味が子どもたちの姿に重なってきました。

こらえてこらえて 我慢して我慢して 妥協せずに己と戦う  
そこに命の根が生えてくる  
根を持った命は自分の殻を突き破る  
新しい道がそこから開ける 妥協の人生に新しい道はない

農業研究家の赤木幸一氏によると、カボチャの実をたくさん収穫するには、花を咲かせるころに、根が切れる程度にまで根元を引っ張って、根が切れたら、上から土をかぶせるのだそうです。つまり、カボチャに逆境を経験させることで、根をしっかりと張らせ、多くの実をならせる強いカボチャに育てることができるのだそうです。

通常、目に見える成果や状況に注目が集まりがちですが、それだけでなく、目に見えない「根っこ」の部分を強くすることが「新しい自分を創り上げる」ことになり、「新しい道を拓く」ということを教えてくれる事例だと思います。

今回の運動会を通して子どもたちが見せてくれた姿。それは、エジソンが「成功の秘訣は断じて諦めない心をもつことである」と言ったように、子どもたち一人一人が「こらえて、我慢して、妥協せず」に、最後まで諦めずにやり抜いた結果であると思います。そこに辿り着くまでの過程を通して、子どもたち一人一人、たくさんを感じ、学んだことでしょう。何を学んだか、どのようなことを感じたか、それを今日の自分、明日の自分にどのようにつなげていくか、それは、学校の教師の使命や役目であり、ご家庭における親の務めでもありましょう。

かくして、子どもたちの「命の根」は、新しい自分の姿を気付かせ、諦めないことが自信となり、新しい道を子どもたちに示し、日々新たに成長する喜びをもたらしていくのではないかと、そう思いますし、そう願わざるを得ません。

「木は死ぬまで成長を続ける」と言われています。学校も教師も一本の草木のように、明日の新しい姿を求め、また、これまでの殻を打ち破るべく、一時も忘れずに自らを成長させていく姿勢をもつことが大切です。

運動会も大成功のうちに終わり、6月はふれあい月間、そして読書月間となります。私たち教員も、子どもたちの姿に学び、夏に向けて様々な研修活動を企画する中で、子どもたちの心に寄り添う力、共感的に理解する力などを高め、教育活動の根幹となる「命の根」を深く、強く張っていきたく思います。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。